



	会議の内容
座長	<p>1 開会</p> <p>第5回策定検討会を開始する。 事前にお知らせしたように、今回は「今後の教育のあり方」について、参加者の皆さん一人ひとりから、忌憚のない意見をいただきたいと思う。</p>
事務局	<p>2 議題「今後の教育のあり方について」</p> <p>資料1について説明。</p>
参加者	<p>学校現場の教員たちが、教育施策をどのように捉えているのかを踏まえながら意見を述べたい。教員は施策を大きくではなく、小さく捉える傾向がある。例えば、子どもの学力を向上させるために、手立てや取組の工夫により、小さな成果を積み重ねることに尽力している。そのため、「キャリア教育」となると、子どもたちに職場体験をさせたり、経験させたりするなど、細かな取組だけに偏りがちである。</p> <p>しかし本来、キャリア教育が意味することは「職業感」や「勤労感」を育成することだと考える。社会の発展を牽引する力を身に付けさせ、どこでも、どんな時でも活躍できる力を育成することである。また、「職業感」や「勤労感」は若者の自律のために大切であり、一人で判断・行動するために、様々な人の意見を聴くことができる人を多く育成することが重要だと考える。</p> <p>また、子どもたちには多くの挑戦をさせたい。学校でいうと運動部活動が主であるが、近頃、生徒たちは自分たちの実力に自信がもてないと、大会へのエントリーを遠慮する傾向がある。「強い人が勝つ」のではなく、「勝った人が強い」のであって、最後まで分からないのが勝負であることを知ってほしい。だから挑戦する気持ちをもってほしい。そういった意味でも、東京2020オリンピック・パラリンピックはチャンスと捉えている。</p> <p>教育施策を考えるにあたり、ある程度現場に自由度がある雰囲気をもたせてもらえる施策であると、教員はもっといろいろなことを教えられると思う。</p> <p>地域運営学校の人材が固定化してきている。学校運営協議会委員の代替わりをしなければならぬ時期である。一方で「地域学校協働本部」の構築も視野に入れていかなければいけないが、学運協の委員は青少対委員などと兼務している方が多い。今後、人材の発掘が益々重要になってきている。</p>
参加者	<p>「夢と志をもち、確かな学力と豊かな心を育成する」など、国や東京都の方針に関し基本的に共感し、また、実際の教育においても、学校では丁寧に行われていると実感している。しかし、勉強嫌いの子どもの多いのも事実である。それらを踏まえ、日頃から感じていることについて述べさせていただく。</p> <p>1点目は、「確かな学力」について。小学校レベルの漢字すら書けない10代後半の若者が多く見受けられる。社会に出て必須なのは「読み・書き・そろばん」であると感じている。知ることは本来楽しいことなのに、どこかの段階でつまづき、学校や勉強が嫌いになってしまっている。都教育ビジョンの基本方針1 - 「基礎学力の定着」は最重要課題である。しかし、勉強嫌いな子どもは、10を教えても1しか理解していないのではないかと。そのため、小・中学校では、例えば10教えずにはならないところを5に留め、その他はできなくてもやむなしとするなど、必要最小限にならざるを得ない。10を理解できる子はより多くを、1つのことしかできない子どもでも、じっくり、ゆっくりと学び理解できるようになると、できることが2つ、3つと広がっていくのではないだろうかと思う。</p>

	<p>学校では、さまざまな指導の工夫をしているが、今後、小学校では英語など、さらに学ばなければならないことが増えていくため、益々理解している子どもとできていない子どもの差が生じてしまうと懸念される。</p> <p>2点目は、働き方改革について。学校に求められる役割は増大し、日本の中学校の教員の授業時間はOECDの平均を下回る一方で勤務時間が上回っていると報告されている。実際に学校では、とある生徒が授業を抜け出したとか、学校に来ないなどといったトラブルへの対応に時間をとられている教員を目にする。</p> <p>学校は、確かな学力・知識を育むことが第一義で、本来、社会生活を営む上での知識やマナーなどのしつけは、家庭で行うことである。しかし、現状その比重が逆転しているのではないかと思う。</p> <p>すでに様々な対策はとっているであろうが、若く経験の浅い教員が増えている中、ICT化の推進の加速や人的サポートの充実、特に特別支援教育の充実、さらにはメンタルヘルスサポートへの充実をより積極的に進めてほしい。それにより、教員が元気になり、夢と希望を持てる子どもたちを増やしてほしい。</p> <p>3点目は都教育ビジョンの基本的な方針8-「生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりを推進します」に関連して、生徒の多様なニーズに対応するよう専門高等学校の充実に期待する。</p> <p>4点目は、地域の教育資源の活用を積極的に進めてほしい。人材の確保という課題は地域の我々にとっても共通の課題である。</p>
参加者	<p>いじめが起きるとマスコミなどでは加害者の非を問うような報道はなく、悔い改めるようなこともなく、時間が経てば事が収まるのを待つというような状況である。一方で被害者は、精神的にも肉体的にも追い詰められ、何年も塞ぎ込み、夢も希望も持てない生活が続き、自ら命を落としてしまう事態になってしまっている。</p> <p>教員はいじめは悲惨なものであり、いじめは必ずあるものという認識を持ち、いじめへの感知度を高め、生徒の態度や表情、休み時間の行動等を感じ取り、また、保護者からの問合せなども含めて、報告書の作成を義務化してはどうか。該当するような事例がある場合には、週1回程度、校内検討会等を開催してはどうか。被害者ゼロをめざすとともに、いじめが発生したら被害者の保護者は必ず警察に被害届を提出することを指導するという必要もある。</p> <p>最近では、SNSやLINEなど、ネットでのいじめが多く、外から見ただけでは気づきにくいので、被害者の保護者がピンときていないことがあるようだ。</p> <p>オリンピック・パラリンピック教育に関連して、1958年のアジア大会が開催された当時、小学6年だった私は学校の授業で国立競技場に行き、陸上競技を観戦した。その際、周回遅れとなった外国人選手がゴールする時に会場中から拍手が起きたことに感動し、その様子を作文にした記憶がある。諦めずに最後までやり通すことの素晴らしさや自分が努力すれば達成できるのだということを学び、これまでもその考え方で生きてきた。来年の東京2020大会では、全小・中学校の児童・生徒全員は難しいかもしれないが、抽選でもよいので市として子どもたちを国立競技場に招待してもらいたい。子どもたちの将来に役立つことになればうれしい。</p> <p>働き方改革では、教員の増員はもちろん、学校運営協議会が中心となり、地域の人による学習支援の機会を増やすことによって、放課後等の学習支援が充実。教員の負担軽減につながると思われる。また、地域との一体感・連携が深まることで、より良い学校になっていくのではないか。</p>
参加者	<p>八王子の特色を施策に活かしてはどうか。八王子の特色として、まず「市民力の高さ」が挙げられる。「八王子ビジョン2022」の都市像3・「未来をひらく子どもを育てる教育」や「学びを活かせる生涯学習の推進」で示されている施策を実行する場面で大きく市民力が発揮されてきていると感じている。例えば、地域の人材を活かして地域運営学校を構築し、展開・充実化を図っている。また、市と市</p>

民の協働により生涯学習の機会を多彩化しているというようなことが挙げられる。子どもから大人まで、様々な世代の教育環境を育むことにも、市民力が活かされてきている。今後の八王子では、この市民力の高さを更に活かし、市民力をより高めたいけるような取組ができたらいと考える。

そのためには、人の基礎的な能力に焦点を当てて施策を展開していくことが必要である。基礎的な能力というのは、社会の一員として目の前で起きていることに対して関心を持ち、子どもでも自分の意見をもって解決に向けて仲間と意見交換できるであるとか、ほかの人の話が終わってから話すなどといった素養である。

そのような素養を一人一人に育むことで、学んだことを将来社会で役立てたいけるという素質をもった市民を増やすことにつながるのではないかと考える。

学校教育の場では、クラスづくりという面において、教員が上手にクラスをファシリテーションできると、子どもたちが自分たちの意見を交換し、対話しながら目の前の課題を解決したり、授業で分からないことがある子がいたら、分かる子が教えてあげたりするような学び合いの場としての展開が図られ、よいと思う。

子どもだけでなく大人もしっかりと学んでいくことも大切である。大人は生涯学習や市民活動を通して、地域で多様な価値観の人と接し、互いに尊重しながら自分の経験や感性を高めていき、自分の子どもや地域の子どものに接することで家庭教育の質を向上させ、学校教育の効果を高めていくものである。いわゆる生涯学習で学んだことを大人に還元するような循環ではなく、世代を超えて子どもたちに背中を見せるであるとか、自分が得たものを家庭教育の中で生かしていくというような「世代を超えた学びの循環」を図ることで、将来、地域が高い市民力となっていくのではないかと考える。

参加者

子どもを将来的に自立させ、自分で稼いで生きていけるようにするのが保護者の使命だと考えている。小学校や中学校、高校には、子どもたちが安心・安全な自分の居場所があり、そこで意欲的に勉強できる環境を整えてもらうことを希望している。

学校サポーターをしていた経験から、そのような環境で過ごせている子どもはごく一部に限られていると感じる。それは、家庭環境の影響もあるが、子どもの特性にもよる。最近は様々な特性のある子どもが増えている。いじめ問題にもつながることだが、子どもの特性を皆が理解しなければ、いじめも無くならないのではないかと。一人一人が異なるキャラクターであり、癖があるのだということを皆が認識し、認め合うことで、初めて安心できる居場所がくれるのだと思う。

まずは、近くにいる大人たちがそれを理解し、子どもたちに理解させて、社会に出してあげたいと思う。

参加者

これまでPTA活動や様々な会議に出席してきた経験から、自分自身が学ばせてもらっていると感じている。本検討会で話した内容を実際に自校に持ち帰り、スクールカウンセラーとの意見交換の場を設定したり、東京ベーシックドリルを子どもたちの学習に活用したりする取組などを始めたところである。検討会が自分の学びの場になっており、今まさに意欲的にPTA活動に取り組んでいると実感している。

また、検討会の内容を他の保護者に共有すると、積極的に興味をもってくれる保護者がいる一方で、「PTAなんてよくやるよね」であるとか「ボランティア活動なんて偽善行為だ」などと言う方もいて、教育活動へ協力することが蔑まされている風潮を感じる。本来、こういった活動の成果は子どもたちの教育や自分たちの達成感につながる良いことなのに、大人になると、なぜか一生懸命に取り組むことが「ダサい」というような空気がつくられるのはもったいない。

いじめは「ダサい」ことだという雰囲気づくりも必要だが、「格好いい」「ダサい」というだけではなく、大人が地域に出て活動し、人間力を高め、それを子どもたちに継承していくことを「当たり前」のように取り組めるような施策があるとよいと思う。

<p>参加者</p>	<p>学力に関する国際比較のデータから、日本の中・高生は、学力はとても高いが自己肯定感や自分に対する自信が諸外国と比較して圧倒的に低いようだ。これからの日本を背負って立つ子どもたちが、果たしてこんなに低くてよいのか、それを改善するためにはどのようにしたらよいのかということを中心に大きなテーマとして考えている。</p> <p>1点目の課題として、教育の場では「次に挑戦しようとする意欲」や生涯学習につながる「さらに学ぼうとする意欲」など、学んでチャレンジすることでもっと立派になるだとか、良い人間になるんだということを子どもたちに伝えることをめざしていかなければならない。意欲がない人間はなかなか次に発展しないし、社会が活力を持つためには、個々の人間が様々なことに意欲的にチャレンジして関わることが重要である。子どもたちの人間教育の根本である意欲や前向きに挑戦する心を育てていきたいと思う。</p> <p>2点目の課題は、人間関係をいかに構築するかについてである。引きこもりや不登校、登校しぶりの子どもは、それなりの人数が存在する。個々に接すると高い能力があるが、人とうまく接することが出来ない。例えばいじめにあった時にも、うまく回避する力や、人間関係をつくる力などを伸ばしていってあげることが大事である。近頃は遊び方も個々の遊びに変わってきているので、他人と関わる機会を設け、様々な人がいることを理解させていくことが必要である。</p> <p>3点目として、キャリア教育は大事である。世の中にはたくさん仕事があるのに、それに目を向ける機会が少ないと感じる。社会は多くの人たちが、色々な仕事をしているから自分たちの生活が支えられているという社会の仕組みを子どもたちに体験させてあげたい。いずれ大人になった時に自分たちも社会の一員として仕事をすることという意識を小さなころから気づかせていくことが必要である。</p> <p>また、「子どもの貧困」が問題となっている。家庭教育が不十分であるため、本来勉強ができるのに、そのチャンスが奪われてしまっている子どもたちが一定数存在している。保護者への教育や恵まれない子どもたちに、地域で金銭的に時間的に、愛情をかけてあげて、負の連鎖を防ぐことが必要である。</p> <p>少子高齢化については、特に少子化が問題である。若い人が結婚せず、晩婚化も進んでいる。国が栄えるためには、若い人たちが教育を受けて、社会の一員として生きているという喜びを持っていることが重要であるとともに、家族を持ち、子どもを育てることが幸せであることを経験させてあげたいと思う。</p>
<p>参加者</p>	<p>1点目、八王子の子どもたちに八王子のことをもっと知ってもらうための「八王子総合教育プログラム『八王子学』」を創設してほしい。自然や文化、産業を教材化して、資料での学習だけでなく宿泊を伴う体験的なものを含めて、小中一貫教育の連携を深めた教育プログラムができないだろうか。八王子城跡のガイダンス施設などがあるが、小・中学生が宿泊しながら一緒に学べるような学習機会をつくることができないか。</p> <p>2点目、八王子の子どもに強みをもたせられるよう、重点教育施策の推進を図ってほしい。今後小学校においては専科が推進されていく。国においても、小学5・6年生になると教科の専門教員が配置される計画が進められている。その中で、本市の子どもたちに一つでも良いので強みとなることをもたせてあげてほしい。一つは、英語。外国語がしっかりと学べるということ。一つは、ICT。パソコンなどのスキルを活かせるようにすること。一つは、理数系教育で、数学や理科を通じた教育が行われてほしい。市で英語や数学、漢字検定などへの補助をするような予算措置なども必要である。板橋区では、リーディングスキルテストを導入しており、読解力を高める取組を行っている。地域全体で「この力を子どもたちに付けよう」といった取組があってもよいと思う。</p> <p>産学連携もより推進していく必要がある。23もの大学や高専等が身近にある環</p>

	<p>境を活用する余地が残っている。小・中学校と大学等が結びつくような取組ができないか。さらに、市内にある多くの都立高等学校とのつながりがもてていない。様々なスキルや教育施設を持っている高校が身近にあるので、連携をとっていけるとよい。</p> <p>3点目、地域運営学校といいながら、地域ごとに閉鎖的である印象がある。地域はつながっているものであるため、広がりをもっていくような取組があるとよい。例えば市域を5ブロックに分けて、ブロックごとに情報交換会などを行い、全市的に互いの活動を知る機会をもつことが必要である。また、地域人材の活用については、コーディネーターなどの地域の協力母体となるような組織を育てていかないと、学校で人材が活かされていかないとと思う。</p> <p>4点目、学校の校舎の老朽化や少子化の動向がこれだけ進んでいる中、これからの八王子の校舎モデルをつくっていくことが必要である。市民コンペや学校に意見を聴くなど、市民の意見を取り入れながら、小中一貫教育や生涯学習施設、福祉施設との複合化なども視野に入れ、行政単独ではなく市民とともにこれからの八王子の学校施設の姿を描いてほしい。今から取り組まないと、老朽化と少子化のスピードに追いつけないだろう。そのために、校舎がなくても学校と関係機関が連携するような教育活動も考えていく必要である。</p> <p>5点目は、子育てから家庭教育、学校教育、社会教育、生涯学習といった大きな流れを見えるようなビジョンを示し、市民や自分たちがどのような学びをすればよいのかイメージできるようにしてあげてほしい。</p> <p>オリンピック後に、スポーツクラブが学校や地域に積極的に関わることや、来日した外国人との国際交流も進めてほしい。</p> <p>最後に、いじめ防止対策について、スクールロイヤー制度などの、学校や保護者の相談できる組織の構築。専門家を交えた授業や講座の展開をする必要がある。中学生のシンポジウムだけでなく、保護者のシンポジウムの開催も求めたい。</p>
参加者	<p>子どもたちの安全な居場所の確保は大切である。小学生には学童や放課後子ども教室があるが、中学生には無い。市内には児童館が10箇所しかないため、市民センターの一部を子どもの居場所として開放してもよいのではないかと。地域によっては、高齢者福祉施設がそのような場を提供してくれるところもあると聞く。市では、協力してくれる施設に防犯対策を講ずるための支援をするなどして、子どもたちの居場所の確保に努めてもらえるとよい。今後の学校施設のモデル構築の際に、その視点を置いてほしいと思う。</p>
参加者	<p>大人の学びや成長にこだわっている。全国教育振興の計画を見てきたが、子どもの教育や大人の生涯学習はあるが、人としての成長や人と接する能力を高めるといった「大人の人としての社会性を育む教育」という視点は未だかつて無い。ぜひ本市の計画に全国に先駆けて施策を掲載してほしいと思う。なかなか難しいだろうが「大人から先に学んで、子どもに良い影響を与えていく」というようなことができないかと思う。</p>
参加者	<p>普通高校に通っている子どもは多いと思うが、各種専門学校が重要だと考える。職業的に将来生活できるような知恵や知識を身に付けさせてあげたいと思う。</p>
参加者	<p>現在市では、ALT（外国語指導助手）を配置し、子どもたちは外国人と接することに抵抗感が無くなってきているようだ。今後、益々グローバル化が進んだ時に、多くの子どもが外国人と仕事をするようになるだろう。小学生のうちからネイティブの方と片言でもジェスチャーを交えて、なんとか相手と意思疎通ができるというのは、大変意味のあることだと思う。来年度から小学校の英語の時間も増えること</p>

	<p>から、さらに子どもたちが外国人と接して、外国人の気持ちを実感を通して理解する機会を充実させてあげるようにしてほしい。</p>
参加者	<p>中学校で放課後の学習支援などを通して感じることだが、解けない、できない問題は、小学校の時からできていないことが多い。しかし、できない問題をできなくて良いと思っている子はいない。家庭での学習環境やその子の特性など、できない原因は様々であるが、横で勉強を見てあげて、これまで分からなかった問題ができた時に、子どもの目が輝くことが忘れられずこれまで支援を続けている。このような子どもたちの「できた」という瞬間を増やしてあげられたらよいが、そのためには人的なサポートが必要なのだろうか。</p>
参加者	<p>学習支援の一貫で、東京ベーシックドリルを実施して、マル付けボランティアを行っている。だいたいの子は問題なく解けるのだが、解けない子どもには教員が集中的に指導している。最低限の課題だけをできるようにしてあげれば、興味あることは自分で学んでいく。本来勉強は楽しいものなので、その楽しさを教えてあげることが一番の教育だと思う。</p>
参加者	<p>現在、大学では社会貢献の一貫で、地域の方たちと連携して放課後の学習支援を行っている。学生を派遣したり教材を提供したりしている。地域には商社に勤めている方やキャビンアテンダントで英語が堪能な方など、様々な能力を持った方がたくさんいるので、その学校の子どもたちは授業で教わるだけでなく、実践的な英語や算数・数学に触れる機会を持てる。大学側はそのような姿勢があるので、放課後の時間の確保など、学校側からも支援をすればより連携を深めていけるはずである。</p>
事務局	<p>子どもたちの自己肯定感、自己有用感を高めることは学校教育の大きな役割である。そのために、習熟度別や少人数指導、放課後学習支援は進めてきているところ。できた、わかった、人の役に立っているんだというような自己有用感などを育むための教育施策は第3次計画にも反映していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>教員が一生懸命にやってくれていることは理解している。しかし、「学校と家庭と地域が一緒に」と言っても、果たしてそれが現場の教員まで届いているのか疑問である。教員は遠慮していて、子どもの学力の状況を保護者に伝えにくいのではないかと。教員が家庭へ情報を共有することが少ないので、手遅れになると非協力的な保護者も出てきてしまうのではないかと。保護者としては、もっと知らせしてほしい。情報を伝えてもらえれば、PTAでも保護者へ広めていけると思う。</p>
参加者	<p>小学校では宿題で家庭で学習してきてもらい、ほとんど担任がマルを付け、できていない点については一度家庭にお返しして、子どもへのメッセージという形で書き添えているはずである。電話で都度、個別に子どもの苦手な部分をお伝えすることは無いが、学校では子どもの学習の記録はしている。その宿題でのやりとりが積み重なっているため、子どもの状況が分かるはずである。それを活用して家庭でも学習を見てもらえればありがたい。しかし、一生懸命に情報を発信しても、何のリアクションもない保護者がいるのも事実である。そのような子には、教員も地域の方も何とかしようとしているが、周りの大人の手を十分にかけてあげられないまま学力が低下し、小学校を卒業して中学に進学しても勉強がつかずいてしまう。すべての保護者が自分の子どもを何とかしようという意識があるわけではないので、いかに親としての意識をもってもらえるかが課題である。</p>
参加者	<p>学力の低下には、家庭の無関心にも原因がある。学力の低い子どもの保護者は、</p>

事務局	<p>子どもは学校に通っていれば勉強ができるようになると考えている傾向があるようだ。親も子どもと一緒に育つことから、PTAにも参加してほしいがなかなか理解が得られない。今年から、私の地域では、「30点を35点に上げよう」と学習支援をしている。80点を85点にするのは簡単であるが、30点から5点あげるために、みんなで努力して、学力が低い子を底上げする取り組みを始めた。まずは子どもが意欲的に勉強に励むようになれば、保護者も関心をもつようになってくれるのではないかと考えている。学力の低いところの底上げをするのが教育であると思う。</p> <p>オリンピック・パラリンピック競技の観戦機会をつくってほしいという意見があったが、現在市ではできるだけ多くの子どもに観戦してほしいと考えており、東京都へ希望を出しているところ。真夏で猛暑の中の観戦が予想されたり、バスでの長距離移動や引率教員等の問題などがあるが、一生に一度あるかないかのことなので、実現に向けて調整している。</p> <p>また、スクールロイヤー制度の重要性を感じており、現在導入を検討している。</p> <p>学校施設の老朽化対策については、市の公共施設全体の再編のあり方を検討するため、市民の皆さんとともに地域づくりを検討していく事業の推進に向けて、今年4月から動き始めたところである。児童館や市民センターなどの公共施設も含めて、再編を検討していく。</p>
参加者	<p>前回の東京オリンピックの時、当時小学5年生だったが、掃除をしていたらゴミ箱に国立競技場の観戦チケットが束で捨ててあったことがあった。当時は交通費の負担など様々な事情があったのだと思うが、あの当時はとてもがっかりした記憶がある。ぜひ、子どもたちに観戦の機会を与えてあげてほしい。また、オリンピック後に、立派な施設をどのように活用するのかも課題。施設の活用なども含め、後世につながるような取組を進めてほしいと思う。</p>
座長	<p>今回はブレインストーミングという形式で、参加者の皆さんから様々なご意見をいただいた。事務局では意見を参考にし、第3次計画に反映してほしい。</p>
3 報告事項「学校選択制の見直しについて」	
事務局	<p>資料2について説明。</p>
参加者	<p>各小学校では毎年6月に、学校選択制度で学校を選択する保護者を対象に説明会を開催しているが、今後の扱いはどのようになるのか。</p>
事務局	<p>通学区域については維持する。また、許可区域にも指定校が存在するので、説明会は継続して開催していただくことになる。</p>
事務局	<p>新たな制度は令和3年(2021年)4月に入学する子どもから適用するため、来年度の入学者については現行制度のままである。</p> <p>現制度は小学校は廃止とする。現制度では、隣接・近接する区域であれば自由に学校を選べたが、東日本大震災等の災害を契機に、保護者は子どもの安全を考慮し、より近い学校を選択している実態があったことから、指定校よりも選択校のほうが近い場合は、指定校承認基準を充実することで、選べる範囲は減るが、これまでの実態に沿う形に見直しをしたところである。</p> <p>また、子どもの特性に応じて適した規模の学校を選べる点についても指定校承認基準に新たに追加して点である。</p> <p>中学校は基本的に現行制度継続となる。しかし、これまでのように受入れ人数の基準を見直し、新学習指導要領に基づく指導方法の実態に沿った教室数を確保する</p>



	<p>ことを優先するため、受入数は減る。よって抽選の機会は増えることとなる。</p>
参加者	<p>恩方第二小学校の特認校制度はどのようになるのか。</p>
事務局	<p>特認校制度は廃止となる。これまで特性に応じて小規模である恩方第二小を選んでいったようなお子さんは、自宅から近い小規模校を選択できるようにする。 バスなどで遠距離を通学する子どもが多かったため、子どもへの負担が大きかったと聞く。より近くにある小規模校へ通えるようにすることで、そういった課題も解消できるかと思う。</p>
参加者	<p>中学校の選択制と抽選は相容れない制度ではないか。実際に私立中学を受験をしたが、不合格になってしまい、公立の指定校に通うことになる、いじめの対象になってしまうことが大きな問題になっている。選択制度で希望する学校の抽選に漏れた子がいじめの対象にならないような配慮や対応が必要である。</p>
	<p>4 その他</p>
事務局	<p>資料3で会議日程の変更について説明。</p>
	<p>5 閉会</p>
座長	<p>次回の会議の開催予定について事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>今回は5月27日(月)、場所は市役所本庁舎8階801会議室。時間は午後7時から予定している。 次回の会議では、第3次八王子市教育振興基本計画における基本的な方向や施策体系について意見や助言をいただく。</p>
	<p>会議資料は、事前に電子メールにて送付する。</p>
座長	<p>本日はこれにて閉会とする。</p>